



幻想的な灯りで魅了 アイスクャンドル祭り開催

宿場をアイスクャンドルで飾る「木曾十一宿氷雪の灯祭り」が、1月下旬から木曾郡内で順次開催されてきました。南木曾町では2月14日（土）に郡内開催の最後を飾る形で、妻籠宿場内と桃介橋で開催しました。



約650個のアイスクャンドルが妻籠宿と桃介橋を幻想

的な灯で包みました。

今年は暖かい日が続いたため、氷作りが心配されましたが、木曾町の加藤実行委員長さんのご好意により大型冷凍庫を使用させていただき、大量の氷を製作することができました。また、氷の運搬などには、ボランティアで企業や個人の皆さんにご協力いただきました。

両会場では湯茶や豚汁などのサービスがされ、町内外から約1千人の方々が訪れました。会場では「きれいで驚いた」「すごく幻想的」と大好評で、写真を撮る方たちの姿が多く見られました。

氷作りや準備、片付けにご尽力いただいた実行委員会の皆さん、ありがとうございます。



大崖砂防堰堤 近代化産業 遺産に認定

日本の近代化に貢献した歴史的な建物などの近代化産業遺産に南木曾町妻籠の大崖砂防堰堤が、経済産業省から認定されました。

これは、国土の安全を高め都市生活や産業の発展の礎となった治水・砂防の歩みを物語る近代化産業遺産群として評価されたものです。

大崖砂防堰堤は、明治13年にオランダ人技師ヨハネス・デ・レーケの進言によって作られた長野県下で最古の砂防

堰堤といわれています。明治天皇が砂防工事を見学された記録を基に発掘を進めたところ、昭和57年にほぼ無傷で発見されました。

2月23日に大阪市中央公会堂で認定証とプレート授与式が行われ、宮川町長が出席しました。

